

市立博物館企画展イベント「まがたまをつくろう！」

まがたまから歴史を学ぶ

12月16日、市立博物館で、開催中の企画展「気仙の石器と岩石Ⅰ」関連イベントとして、「まがたまをつくろう！」が行われました。

参加者は、市内の貝塚で出土したまがたまについて学んだり、石を削ってまがたま作りを楽しみました。参加者は、「丸くなるように削るのが大変だったけど、上手にできた」と満足そうでした。

企画展は1月20日(日)まで開催しています。



おおふなと産直海鮮まつり

浜のうまいもんが大集合

12月23日、大船渡市魚市場を会場におおふなと産直海鮮まつりが開かれました。

5回目を迎える同イベントは、大船渡魚市場買受人組合が主催。大船渡ならではの新鮮な海の幸や加工品を取りそろえた地元の水産加工業者などが集結し、会場内は威勢の良い掛け声が響く中、当日限りのお買い得品を買い求める大勢の来場者でにぎわいました。



(7) 広報大船渡 31.1.8(No.1142)

▷ 問い合わせ＝市役所 ☎0192@3111

漁火イルミネーション点灯式

神秘的な輝きで街を演出



12月16日、防災観光交流センターで、漁火イルミネーションの点灯式が行われました。このイベントは、LOVE大船渡プロジェクト実行委員会が、漁船の集魚灯や漁具を再利用した漁火イルミネーションで街を照らし、地域活性化などを図ろうと企画。同センターのほか市内6カ所で幻想的な空間を演出し、訪れる人々を魅了していました。

防災観光交流センター愛称決定

愛称は「おおふなぽーと」



12月28日、市役所での定例記者会見において、防災観光交流センターの愛称が発表されました。愛称は、「おおふなぽーと」で、応募総数284作品から福島県在住の仁井田京子さんの作品が選ばれました。この愛称は、「大船渡」と港を意味する「ポート」を組み合わせたもので、大船渡らしさを感じられ、響きが良く親しみやすいなどの理由から選定されました。

トピックス 1

「吉浜のスネカ」ユネスコ無形文化遺産登録記念記者会見

11月30日、東京都内で、「吉浜のスネカ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産登録を受け、記者会見が開かれました。

会見には、戸田市長、吉浜スネカ保存会の柏崎久喜会長と岡崎久弥副会長が出席し、登録を受けた来訪神行事の関係者らと喜びを分かち合いました。

今回登録されたのは、仮面・仮装の異形の姿をした者が「来訪神」として年の初めや季節の変わり目などに家々を訪れる10件の行事。

「来訪神」は子どもや怠け者を戒め、人々に幸福をもたらすといわれています。



①後世への継承を誓い合う関係者
②小正月の晩に仮面・仮装の「スネカ」が家々を訪れる三陸町吉浜地区の行事



トピックス 2

さんりく水産・海洋研究セミナー in 大船渡

12月5日、大船渡市魚市場で、「さんりく水産・海洋研究セミナー in 大船渡」が開かれました。

同セミナーは、いわて海洋研究コンソーシアム、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構、同大学三陸水産研究センターが、水産業の課題解決に向けた調査研究を紹介する目的で開催し、5人の専門家が講演を行いました。

会場には漁業関係者や一般市民など約130人が来場し、サケの不漁や磯焼けの要因、貝毒の発生状況など、漁業を取り巻く現状について理解を深めました。



①漁業関係者などを中心に約130人が講演に熱心に耳を傾けました
②開催地を代表してあいさつする戸田市長

トピックス 3

年末年始特別警戒合同出動式

12月14日、大船渡警察署で、平成30年度年末年始特別警戒合同出動式を行いました。

出動式には大船渡警察署や防犯協会、交通安全協会などの関係者約70人が出席。戸田市長が「市民の皆様が犯罪や事故などのない穏やかな新年を迎えられるよう、積極的な地域安全活動の展開をお願いしたい」とあいさつを述べました。

この取り組みは、安心して暮らせる地域づくりを目指し、警察をはじめ各関係機関・団体が連携し、地域安全運動として毎年実施しており、パトロールや啓発チラシの配布などの活動を行っています。



①今後の活動への意気込みを述べる市防犯協会連合会防犯隊長
②防犯と事故防止を呼び掛ける及川大船渡警察署長

(6)